

ソーラーシェアリングのある風景

て太陽光発電設備の工事をやっている相模原市の(株)ジャスパーと出合い、相模原の農地を活用して共同でソーラーシェアリングを中核とした営農事業を始めることで合意し、2019年5月20日付で両社折半出資で(株)さがみこファームを設立しました。

わだしたちは「新3K農業」にチャレンジします

日本の農業は3K農業(臭い、汚い、稼げない)とか、三ちゃん農業(じいちゃん、ばあちゃん、お母ちゃん)などと揶揄され、衰退産業の代名詞のように言われて久しいものがあります。確かに、農業人口は減り続け、反比例的に耕作放棄地は増え続け、後継者不足に悩む農家の実態は今でも変わりありません。ここ相模原市も例外ではないと思います。そんな実態を前にして国や地方自治体も手をこまねてきたわけではなく、農地の集約化や法人化、若手農業者の育成など近代化推進の努力が為されてきています。しかし、今回私たちが取り組もうとしている中山間地についてはほとんど見るべき成果はあがっていないと言って過言ではないと思います。

そんな厳しい世界に、ほとんど何も農業経験を持たない私たちが乗り出し

て果たしてうまくいくのだろうか。「シロウトのお前たちに何ができるか」と言われて当然ですが、シロウトだからこそ怖いもの知らずで思い切ったことができるという面もあり、在来農家に不足しているIT技術や経営ノウハウの活用もできます。逆に農業経験がない私たちが在来農家と同じことをやっていたら失敗は目に見えています。まして、私たちが取り組むフィールドは代表的な中山間地です。さがみこファームはそんなフィールドを舞台に、まったく新しい発想で「新3K農業」(きれいな、おいしい、稼げる)の実現にチャレンジしたいと考えています。

ソーラーシェアリングの下
養液栽培でブルーベリーを育てる

「きれいで、かつこよくて、稼げる農業」がそう簡単に実現できるなどと甘く考えているわけではありません。最初は人一倍泥にまみれて、なりふり構わず努力しない限り実現できないことは承知しています。ただ、こんなス

みんなが主役

まちの環境
地球の環境



夢をかたちに

ーソーラーシェアリングで農業に新しい風を!

たまエンパワー株式会社取締役会長
株式会社さがみこファーム取締役管理部長

山川 陽一

ソーラーシェアリングって
何ですか?

皆さんソーラーシェアリングという言葉をご存知でしょうか。田畑の上に藤棚のような形で架台を組み立て、上部にソーラーパネルを取りつけて太陽光発電を行い、下部の農地で作物を育てるやりかたです。営農型太陽光発電とも呼ばれています。2003年に長島彬さんの発案で始められたもので、太陽の恵みを上部と下部で分け合うということでソーラーシェアリングと名づけられました。

どんな植物でも降り注ぐ陽光を

100%受ければよく育つわけではなく、光飽和点というものがあって、それは植物の種類によって異なり、光飽和点を超えて陽光を受けると逆にストレスになつてうまく育たないということがわかっています。例えばミョウガのように陽光が邪魔になる植物もあります。ソーラーシェアリングは、下部で育てたい植物にとつて光飽和点が最適になるようソーラーパネルの間隔をあけて配置するよう設計することによって、発電と営農の両立を企図しています。

最初は農家の方々もこんなことをして本当に作物がうまく育つのか半信

半疑でしたが、事例が増えるにしたがつてその有効性が実証されるようになってきました。農林水産省も800の事例について調査した結果、日本の農業政策上も有用であるということが実証され、国として積極的に支援策を打ち出すようになり、今では全国で2000件を超えるまでになっています。

さがみこファームの誕生

たまエンパワー(株)は東京・多摩地方を中心に屋根上の太陽光発電事業を展開してきた事業者ですが、ソーラーシェアリングに対する農水省の支援策が出されて以来、都心部の生産緑地でもソーラーシェアリングができないか模索してきました。検討を進めるうちに、生産緑地は農水省の管轄下にある農地と異なり、田畑の上に建造物を設置するソーラーシェアリングの建設は認められないことがわかりました。思案に暮れていたところ、縁あつ



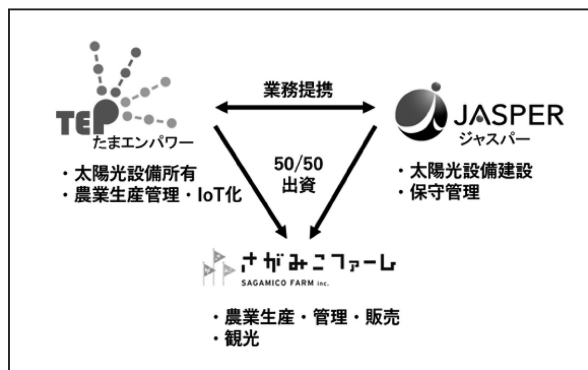
ブルーベリー養液栽培システム

ブルーベリーの生育に最適な配合の養液を最適なタイミングで送り込むことにより大粒で美味なブルーベリーを安定的に収穫できる。土を使わないポット栽培（人工素材アクアフォーム使用）で生育も早い。

マートで稼げる世界が実現できない限り若者も集まらず、農業の明日もないと思うのです。

私たちは、今、国道413号線道志川沿いの前戸地区（相模原市青野原中前戸）に5反ほどの農地を借り受け、ソーラーシェアリングの下、養液栽培でブルーベリーを育成し、それを単に生産販売するのではなく、会員制の摘み取

り農園形式で運営できたらと考えています。すでに農地の利用権を取得し、ソーラーシェアリングシステム建設のための諸手続き（農地一時転用手続き等）も済んで農業委員会から認可を頂ぎ、2020年頭初からソーラーシェアリング設備の建設、養液栽培システムの設置、苗木の植え付けが始まります。



ジャスパー、たまエンパワー、さがみこファーム事業関連図

障壁を乗り越え、夢ある農業に

「食とエネルギーの地域循環を通じて、持続可能なさがみこ地域を作る」これはさがみこファーム設立時に掲げた会社のコンセプトです。

名刺の裏には「食とエネルギーすべての人と」と記してあります。

言うは易く行うは難しと言われます。いくらきれいごとを並べても実現できなければただの絵にかいた餅です。これからは幾多の障壁を乗り越えていかなければならないと思いますが、稼げる農業が実現できない限り次につながりません。前戸で踏み出した第1歩がそれで終わることなく、2歩3歩とつながるよう努力していきます。

私たちの努力が結果として地域への貢献、社会への貢献になれば望外の喜びです。

早く、早く、どこにも負けない美味しいブルーベリーが楽しめる場を作りたい！

（東京都多摩市在住）